

3 オーウェン・ロー・オニールの死に寄せて

(1649年11月10日、ウオーターフォード県、オーモンドの野営にて、話し手は、オーウェン・オニール一族の退役軍人と、オニールの訃報を持って到着した一人の騎兵隊)

I.

「なんだと　なんだと　敵がオーウェン・ロー・オニールを殺しただと」
「はい　奴らは正面切つての戦いを恐れ　頭領に毒を盛ったのです」
「神よ　卑怯者らの心臓を干上がらせ　その血の流れを止めたまえ
オーウェンに毒を盛った奴らに　生き地獄を味わせたまえ

II.

聞けば胸張ける話となろうが　報告せよ」5
「デリーを発ち　クロムウェルと剣を交えんと進軍していた時のことです
その進軍の最中　よもやサクソン人の手にかかり
頭領は聖レオナルの日にクロフオーターで息絶えたのです」

III.

「嘆き悲しめ　剛腕の者のため　嘆き悲しめ　帰らぬ者のため
炉の火を消し　息を潜め　死者の頭に灰を撒け10
皆が彼を慕っていたのだ　二度と会えぬと考えるだけで
主よ　こんなにも深い嘆きに襲われるとは

IV.

合議の場では賢くあり　屋敷では情けあり
そのオーウェンが我らだけでは勝てぬ戦いを　勝利に導いてくれた
生きていれば　生きていれば　祖国は自由を得たろう15
オーウェン亡き今となつては　この先も我らは奴隷のまま

V.

オファーレル　クランリカルド　プレストンにレッド・ヒュー
オードリーにマクマホン　お前たちは確かに勇敢で賢く忠実だ

だが逝ってしまった頭領とは比べものにならぬ
頭領が我らの軍の舵を取り 我らの城の礎石^{いしずえ}だった 20

VI.

嘆き悲しめ 国中で彼の死を嘆くのだ 我らの誇りであった頭領を思い涙を流せ
偉大なる頭領の最期がせめて戦場であったなら
ベンバーブの勝利者のため 老いも若きも涙を流せ
嘆き悲しめ女たちよ 美の化身が冷たく横たわっているのだから

VII.

お前は不死身だと思っていた お前が逝くことはない^{かんじんかなめ}と 25
クロムウエルの残忍な攻撃に対し 肝心^{かんじんかなめ}の時に逝ってしまうとは
大雪が空を埋め尽くす時の 羊飼いのない羊も同然
ああ なぜ我らを置いて逝ってしまったのだ オーウェン なぜ死んだのだ

VIII.

お前の声は女のように優しくとも オーウェン その眼は光輝いていた
ああ なぜ我らを置いて逝ってしまったのだ オーウェン なぜ死んだのだ 30
お前の苦悩は終わった お前は高みで神とともに安らげるだろう
だが我らは未だ奴隷のまま しかも今や父無^{てて}し子だ オーウェン なぜ死んだのだ」

(三木菜緒美訳)